

# さようなら親子水車

26年の活躍に幕



解体工事が始まる親子水車。老朽化で3年前に動きを止めていた

**本**町のシンボルとして知られていたグリーンパレスの親子水車の解体工事が11月16日から始まり、平成4年の完成以来26年の活躍に幕を閉じます。解体は老朽化で修理に大きな費用がかかり続けていることから。水車は故障や破損で使用できない状態が続き、平成27年にはその動きを止めていました。今回解体するのは、親水車と子水車、からくり球磨民話館。11月16日には現地で工事の安全祈願祭を執り行う予定で、工事は来年2月末まで行います。

水車は米の消費拡大の推進と観光客の増を図り、日本一の観光水車を造ろうと計画され、平成4年4月に親水車が、翌年3月には子水車が完成。親水車は直径14・1m、幅1・28m。子水車は直径5m、幅78・5cm。親水車完成当時、岡山県の水車が直径13・6mで日本一と言われていて、親水車は0・5m上回っていました。



町の花、ツツジとともに景観に華をもたせてきた

水車は町民によって「世界一の親子水車みどりのコトクン」と名づけられ、周辺の施設と一緒に町内外の人に親しまれてきました。平成6年には民話館も完成し、水車の動力を利用して民話「弥じゃあどんの首」を上演していました。杵臼4基、ソバ引き用うす1基を備える水車小屋は残し、別の動力での使用を検討する予定です。

The Light of

# 城泉寺

日本遺産を灯す——



4階段にきれいに並べられた灯ろう5阿弥陀堂の参拝者も多数6通路もライトアップ。駐車場からお堂にたどり着く道も楽しめた7プロジェクトマップに興味津々の子どもたち8お堂へ向かう人を見送る絵灯ろう9自分たちで描いた絵が飾られるのは一生の思い出



1

**県**内最古の木造建築物、城泉寺阿弥陀堂のライトアップが9月22日に行われ、たくさんの方が、手描きの絵灯ろうやお堂へ映像を投影する「プロジェクトマップ」を楽しんでいました。国指定重要文化財であり、相良700年のストーリーとして日本遺産に認定されている文化財の一つでもある城泉寺。町内外の人に足を運んでもらおうと地域おこし協力隊が主催し、ことしで4回目。雨で1日延期になりましたが、翌日は天気に恵まれ、絶好の観覧日になりました。境内には町内の園児や学童クラブの子どもたちの絵を使った灯ろうが400個以上並び、お堂はさまざまな映像で美しく彩られました。訪れた人は優しい光りと月明かりにいやされていました。



1絵灯ろうとプロジェクトマップで美しく輝く城泉寺2汗を流す協力隊員。400個以上の絵とろうをきれいに並べるのも一苦労3町内の子どもたちの絵と光は見る人の心をいやしてくれた

